

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所
協働推進課



みなとふ

Takanawa
Community News Magazine

CONTENTS

- ② 街が変わる
高輪子ども中高生プラザ
直通エレベーター
- ③ この街にこの人あり
歌手・ギタリスト
アントニオ・古賀さん



- ④⑤ 地域のあしあと
大名屋敷跡をたどって
- ⑥⑦ 私の自慢・地域の自慢
- ⑧ 区からのおしらせ

別紙

高輪地区防災フォーラム

～共助・連帯・地域の絆づくり～ 開催



「御殿の桜」

表紙絵作者 小川 エリ さん (三田4丁目在住)

昨年は大変な年でした。
今年は希望の花を沢山見たいものです。

さくらリバーズ(再生)

表紙の絵「御殿の桜」は、金子みすゞの詩をイメージして描かれたものです。この金子みすゞの詩「御殿の桜」に、次のような一節があります。

「わたしの春は去にました、みんなわすれたそのころに、わたしの春がまた来ます。そのときこそは、咲きましょう、わたしの花に咲きましょう。」

<御殿の桜 抜粋/『金子みすゞ童謡全集』(JULA出版局)より>

薄幸の人生を歩んだ金子みすゞが自分の人生を重ねて、詩や文学の世界で自分の花を咲かせようという強い気持ちがあらわれています。金子みすゞの詩が評価されたのは、死後50年以上も経ってからで、本や音楽、ドラマなど様々なメディアにとりあげられ、再生して花開いたのです。

現在、日本の桜の品種のほとんどがソメイヨシノです。あまり知られていませんが、ソメイヨシノは、19世紀半ばに発見された新しい品種なのです。明治時代になって学校や川の土手などに積極的に植えられ、現在のよう

に普及しました。ソメイヨシノの普及は、明治時代以前と以後で、桜の景観をすっかり変えてしまいました。ソメイヨシノは人工的な交配によって作られたと言われており、そのためか樹齢が50年を超えると弱ってきます。

高輪地区版計画には、「さくらリバーズ高輪」という事業があります。高輪地区の桜は戦後すぐ植えられた木が多く見られるため、手入れが必要な時期になっています。「さくらリバーズ高輪」事業は、桜の健康診断を実施し、腐った部分を取り除いたり、土壌を改良したり、追肥を行ったりし、桜の再生を図ります。

昨年、東日本大震災で地域の桜まつりはほとんど取りやめになりました。今年は、桜まつりは行われますが、まだ心から楽しめるまでには至っていません。「さくらリバーズ」とともに、「日本リバーズ」の一日も早い実現を願っています。

(担当 / 安藤)

街が変わる 高輪子ども中高生プラザが誕生！



高輪地区に、新しい施設が誕生しました。昨年12月1日にオープンした「港区立高輪子ども中高生プラザ」、0～18才までの児童を対象とした大型の児童センターです。港区では、子ども中高生プラザを各地区1カ所整備する方針で、すでに赤坂地区、芝浦港南地区に整備されており、3番目の施設です。

国民の祝日、年末年始（12月29日～1月3日）を除き、9時30分から20時まで開館しています。

（乳幼児・小学生は18時まで）



周辺環境との調和を第一に

建物の中をちょっと探訪してみましょ。高輪子ども中高生プラザは、地下鉄白金高輪駅の真上という交通至便な場所に位置しています。周囲は閑静な住宅街。建設にあたっては周辺の住環境と調和できるよう、最大限の注意が払われました。周辺には大きな樹木も多く、それらを上手に活かしながら植栽するなど、この一帯は数年後に落ち着いたグリーンベルトに成長することが期待されます。

白を基調とした4階建ての建物は大型の出窓のような独特の外観を持ち、見る人に強い印象を与えるとともに、周辺の住宅地の景観となじむように工夫されています。隣接する住宅地とのプライバシーを保つため、外部に向かっての開口部を極力少なくし、しかも、開放感が感じられる明るくて広々とした独特の空間を確保。また、子どもたちのにぎやかな声が外に漏れ出すことのないように、徹底した防音対策がとられました。体育室やプレイルーム、音楽スタジオ、キッズルームなどを建物内にうまく配置し、その周囲を通路や小部屋で囲むという構造で、騒音の配慮を十分考えています。

インテリアは木の材料が多用されており、床にはゴムチップ材を使用。親しみやすく、清潔な感じがします。



学童クラブ室

特徴は「多目的ホール」「高輪図書館分室」「子育てひろば」

この建物の3つの特徴は、4階の多目的ホール、3階の高輪図書館分室、さらに1階の広い子育てひろばがあげられます。

多目的ホールは収容人員約80名。文字通り小ホールとしてさまざまな催しに対応できる照明・音響設備を備えています。高輪図書館分室は、広々とした書庫と読書スペースを完備した図書館で、蔵書約7万冊。さらに他の区立図書館とリンクした図書の貸出も行えるとのこと。一人で勉強できる学習ブースもあります。パソコンも設置され、調べものやグループ研究のためのスペースも設けられています。

1階の子育てひろばは、広いスペースと吹き抜けの大空間になっており、乳幼児でも思い切りのびのび遊ぶことができます。キッズ向け図書コーナー、読み聞かせコーナーやベビールームもあります。洗面所には、とてもかわいらしい洗面ボールと便器が。まさに保護者と子どもが一体になって楽しめるスペースです。

その他の施設として、2階の体育室は広さ約470平方メートル、バスケットコートをはじめいろいろな球技・運動に対応できる設備を持ち、ローラーブレードなども楽しむことができます。吹き抜けの天井で明るさいっぱい、室内であることを思わず忘れそうな広々とした空間です。

4階の音楽スタジオは、調整室まで備えた本格的なスタジオで、バンド練習にはもってこい、音楽活動に熱中する中高生あこがれの場となることうけあいです。

2階には、小学生が放課後過ごすことができる定員70名の学童クラブ室があります。

これからの課題は、この施設をうまく利用するためのソフト面での施策でしょう。魅力的なイベントプログラムの企画が求められます。また、地域にうまくとけこむため、お祭りなどの行事への参加や地域のお年寄りや幼児・児童とのふれあいも求められます。



子育てひろば



体育室



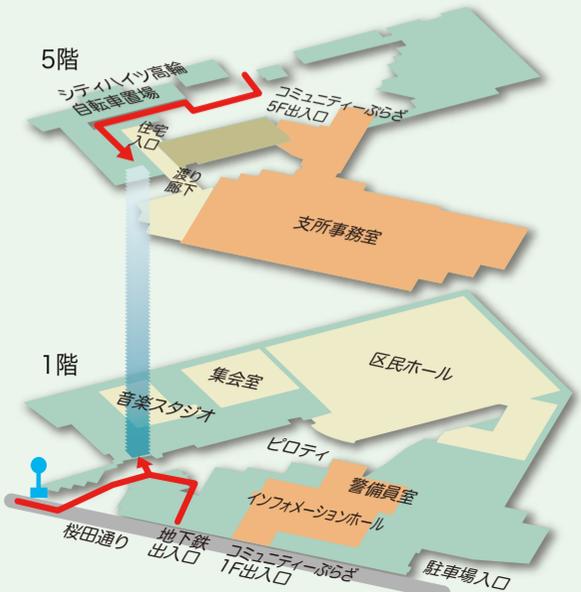
港区立高輪図書館分室

（担当 / 安藤・谷知・吉田）

高輪コミュニティぷらざに、1階と5階を連絡する直通エレベーターができました！

高輪子ども中高生プラザの建設に関連して、高輪コミュニティぷらざに、1階レベル（桜田通り側）と5階レベル（松ヶ丘側）を連絡する直通エレベーターができました。

1階レベルからは地下鉄白金高輪駅やバス停に近く、5階レベルからは高輪子ども中高生プラザにすぐにアプローチできます。1階から5階まで15秒で到達し、朝4時45分から夜12時45分まで運転します。地域の方々にとっても便利になりました。



この街にこの人あり

歌手・ギタリスト アントニオ・古賀さん

歌や演奏は、気持ちや心を伝えることが大事ですよ

ギターを始められたのは何才の頃でしたか 両親のおすすめですか

父は清元、母は小唄をやっています。父は私が2才の時、亡くなりました。

ギターを始めたのは8才の頃からで、ギターの曲を聴くのが好きで、こんな風に上手に弾けたらよいなあと思いいギターを始めました。当時の日本ギタリストの第一人者の阿部保夫先生のクラシックギターの教室に通っていました。

歌を始められたのは

中学3年生の頃まで、クラシックギターだけをやっていましたが、学園祭などでは、歌を歌っている友人の方が女の子にモテているので、私も歌をやりたいと思いました(笑)。

ちょうど、トリオ・ロス・パンチョスのレコードを聴いて感動し、歌を始めました。

古賀政男さんに入門したきっかけは

テレビの歌謡コンクールなど数々のコンクールで優勝したのを古賀先生に認められ、入門することを誘われました。ギターが弾けることも幸いしましたね。古賀先生から古賀の名前を、名ギタリストのアントニオ・シノポリからアントニオの名前をいただきました。

その後、ヒット曲がでて、紅白歌合戦に出場されるなどテレビ・ラジオなどで大活躍されましたね

紅白には歌手で1度、森繁久弥さんの歌の友情出演などで数度出ました。古賀先生から、芸能界は大変なところだよ。よほど、根性がないと務まらないよと言われました。芸能界にはあまり関心はなかったのですが、この世界

でなんとかやっていけたのは、根性だけはあったおかげだと思っています。

高輪地区にお住まいですが、どのように感じられていますか

高輪に住んで12年になります。静かで、どこに行くのにも便利で気に入っています。また、住んでいる所が高輪の商店街に近く、寺町ですが下町の雰



囲気が残っているのがよいですね。銀座の木挽町や築地の近くで生まれ育ったので、下町の雰囲気が好きですよ。

高輪地区では、よく街を歩かれますか

散歩が大好きで、よく息子の音弥(7才)と一緒に歩きます。その日の状態によりコースを選んで歩いていきます。恵比寿、五反田、大崎、田町駅までも散歩することがありますよ。高輪台小学校を1周すると500m、高松宮邸を1周すると600mあります

が、散歩でまわりを何周もすることもありません。

また、歩いていける範囲に、寿司屋、ビアレストラン、ポルトガル料理、イタリアン、天麩羅屋、いろいろおいしい店がありうれしいです。飲んだり食べたりよく行きますよ。

高輪地区で音楽活動をされていますね

自分が住んでいるところなので、何かお役に立ちたいと思います。高輪音楽祭に何度か出演しました。消防署や警察署のイベントにもです。今回、高輪いきいきフェスタには、地域のお年寄りに楽しんでいただくために、出演しました。

日本とキューバとの友好親善を長く続けられていますね

キューバ人が大好きで、キューバにはこれまで18回も行きました。キューバ要人との会合のため、22時間かけて行ったこともあります。キューバ人の生活は豊かではないけれど、今の日本人が失ってしまったものをもっています。例えばプライド(自信)、連帯(人のつながり)、親と子のつながり、節約などです。

治安も日本の数倍もよいのです。女性が夜一人歩きしても安全です。しかし、音楽好きな国なのに、学校にはろくなピアノもないのです。日本の古いピアノを集めて100台寄付し、ギターも100台寄付したこともありました。私の結婚式はキューバで挙げました。キューバの大臣など要人の方々が列席してくださいました。

キューバとの長年の友好親善に対して、最高の勲章である連帯大勲章をいただきました。

ただきました。カストロ議長とも一緒に食事をすることがありますよ。カストロ議長は、恐い顔をしています。とても相手に気遣いをするやさしい方でした。

また、キューバだけでなく、ハイチ大地震の時や中南米の国々の支援も行っております。

東日本大震災の支援にも行かれましたね

高齢者文化振興事業団「虹の会」の理事長なので、全国の老人福祉施設をまわり、高齢者の方を励ましています。虹の会の関係で福島に3回、会津に2回行きました。

築地の寿司屋さんボランティアで演奏しに行ったとき、づけ井2000食を配り、とても喜ばれました。「心の癒し」と「おなかの癒し」の両方を満足することは大事ですね。

遠くからきて被災地支援活動をしているボランティアの方々や行政の方々に励ますためにもコンサートを開いています。

今の若い人に一言アドバイスをお願いします

どの人もよい資質を持っていると思います。必要なことは、子どもに対する親のしつけ、教育ですね。

なんでも基本とプライド(自信)と目標が大事です。人と接する時は、きちんとしたあいさつが必要です。また、若い人は恵まれすぎて目標がなくなっているのです。苦勞を食べることも必要ですね。

楽器を演奏するのは、技術だけではだめです。心がない演奏は、ただ音を出しているだけなのです。気持ちや心を伝えることが大事ですよ。

◆インタビュを終えて

インタビュでは、アントニオ・古賀さんの人に対する深い愛情や温かい思いやりが言葉の端々から伝わってきました。アントニオ・古賀さんの演奏は何度も聴きましたが、聴き終わるといつも幸せな気分になります。それは、卓越した演奏技術や歌唱力だけではなく、アントニオ・古賀さんが持っている温かい心が伝わってくるからだと初めて気がつきました。

(担当/安藤・河村・三村・滝川)

アントニオ・古賀 (あんとにお・こが)

1941年生まれ。歌手・ギタリストとして、世界の舞台上で活躍する熟練の音楽家。8才の時からクラシックギターを習いその後、日本歌謡界で多くのヒット曲を生んだ故古賀政男の直弟子として名を成した。音楽のみならず社会貢献にも活躍しキューバ政府より永年の功労を称えられ文化功労賞を受賞、平成15年度日本アカデミア賞文化部門受賞、平成20年にはキューバ政府より日本の勲一等に相当する「連帯大勲章」を日本の民間人では初めて受賞。そのほかに日本ラテンアメリカ音楽協会理事長、財団法人古賀政男音楽文化振興財団理事、高齢者文化振興事業社団法人虹の会理事長として活躍中。平成22年東京国際大学人間社会学部客員教授となる。

みなと 高輪音楽祭 東日本大震災復興支援チャリティーコンサート 平成24年3月24日(土)

- 開場: 13時30分
- 開演: 14時00分
- 終演: 16時30分 予定
- 場所: 高輪区民センター1階区民ホール(白金高輪駅徒歩1分)
- お問い合わせ: みなと高輪音楽祭実行委員会事務局 ☎03-3440-4066 (磯邊)
- 後援: 港区、Kissポート財団

江戸藩邸（大名屋敷）

■ 三田地区4～5丁目

- ① 土岐伊予守下屋敷→沼田藩（群馬県）現三田4丁目
- ② 一柳兵部少輔下屋敷→小松藩（愛媛県）現三田5丁目

■ 高輪1～4丁目

- ③ 細川越中守中屋敷→熊本藩（熊本県）現高輪1丁目
- ④ 松平兵部大輔下屋敷→明石藩（兵庫県）現高輪2丁目
- ⑤ 松平大隅守下屋敷→薩摩藩（鹿児島県）現高輪3丁目
- ⑥ 毛利淡路守下屋敷→徳山藩（山口県）現高輪3丁目
- ⑦ 松平大和守下屋敷→川越藩（埼玉県）現高輪3丁目
- ⑧ 奥平大膳大夫下屋敷→中津藩（大分県）現高輪4丁目

■ 白金1～3丁目

- ⑨ 織田丹後守上屋敷→芝村藩（奈良県）現白金2丁目
- ⑩ 松平市正中屋敷→杵築藩（大分県）現白金3丁目
- ⑪ 伊達若狭守下屋敷→吉田藩（愛媛県）現白金3丁目

■ 白金台1～5丁目

- ⑫ 松平丹波守下屋敷→松本藩（長野県）現白金台1丁目
- ⑬ 毛利安房守下屋敷→佐伯藩（大分県）現白金台2丁目
- ⑭ 松平讃岐守下屋敷→高松藩（香川県）現白金台5丁目
- ⑮ 松平和泉守中屋敷→西尾藩（愛知県）現白金台5丁目

大名屋敷エピソード

③ 細川越中守中屋敷→熊本藩（熊本県）現高輪1丁目

赤穂浪士のうち、大石内蔵助良雄ほか16名が預けられた。細川家は預かった16名を優遇したことで知られる。大石らは元禄16年(1703年)切腹した。

現在：旧高松宮邸・高輪都営住宅で、屋敷跡の一部が残っており「大石良雄等自刃の跡」「大石良雄外十六人忠烈の跡」の石碑が建っている。



かつては当地にあったが、現在は東京国立博物館敷地内にある。

⑤ 松平大隅守下屋敷→薩摩藩（鹿児島県）現高輪3丁目

島津久光の一行が江戸を出発して京へ向かう途中、生麦で、騎馬のイギリス人数名を殺傷する事件が起きた。（生麦事件：1862年）

西郷隆盛と勝海舟の会見が行われ、のち江戸無血開城が実現した。（1868年）
現在：「SHINAGAWA GOOS（ゲース）」「グランドプリンスホテル新高輪」一帯。

⑨ 織田丹後守上屋敷

地区内唯一の上屋敷で、初代藩主は信長の弟（茶人でもあった織田有楽斎）の四男、織田長政である。

⑭ 松平讃岐守下屋敷→高松藩（香川県）現白金台5丁目

讃岐松平家がこの地を拝領し、大規模な回遊式庭園を築いた。その名残として樹齢推定300年の「大蛇（おろち）の松」「物語の松」と呼ばれる老木が残っている。

現在：「国立科学博物館附属自然教育園」

※現八芳園の場所は、江戸時代初期には、大久保彦左衛門の屋敷であったといわれている。弘化3年の地図では、奥田主馬・嶋津式部抱屋敷となっている。この間の居住者は全くの不明である。このように大名屋敷は固定的なものではなく、幕府による引替えや、大名間の交換などがあり、地図によって名前が異なっている。

泉岳寺四十七士墓所の門

切妻造・本瓦葺・一間一戸棟門で、赤穂藩浅野家の鉄砲州上屋敷（現中央区聖路加病院辺り）の裏門として建築されたものです。

大石良雄が屋敷を訪れる際に、よく出入りした門といわれ、明治初年に取り払われる際に、この場所に移築されました。大名屋敷の江戸藩邸門の様式を残す遺構として貴重です。

（港区教育委員会）



（担当 / 伊関・明石・吉田・安藤）

地域のあしあと

大名屋敷跡をたどって

江戸の街は、明暦3年(1657)1月の大火により、都市部の約6割が焼け、500余の大名屋敷が焼失したといわれている。大火以後、火除地の確保など防災重視政策がとられ、大名屋敷の江戸郊外への引替移転や、非常時の避難場所としての下屋敷の下賜などがあった。当時は江戸のはずれだった高輪地区に下屋敷が多いのは、このような理由によるものだろう。

地図を見て、松平を名乗る大名が多いのにお気づきだろうか。

家康の先祖は、三河国松平郷の出身で、松平を名乗った。家康は、1561年の三河平定後、1566年徳川に改めた。1603年征夷大將軍になった後、徳川は秀忠以下の將軍家本家と御三家に限られ、將軍直系以外は松平を名乗った。

その後婚姻関係を結んだ大名や官位昇進した大名に、松平の称号を与えたりしたので、次第に増えていった。

大名屋敷(武家屋敷)の種類

江戸藩邸には屋敷の用途と江戸城からの距離により、上屋敷、中屋敷、下屋敷等があった。現代では、これを総称して江戸藩邸という。

江戸藩邸のうち幕府から与えられた屋敷を**拝領屋敷**という。一方、大名が自ら購入した屋敷は**抱え屋敷**と呼ばれる。

諸大名は参勤交代制により、常時多数の家臣を江戸に駐在させる必要があり、家格や必要に応じて2-5カ所程度の屋敷を持つようになった。

上屋敷：参勤交代制度により江戸に出仕した大名が居住する本邸。

中屋敷：上屋敷の控えとして使用され、多くは隠居した主や成人した跡継ぎの屋敷とされた。

下屋敷：主に別邸や避難地としての役割が大きく、大半は江戸城から離れた郊外におかれた。

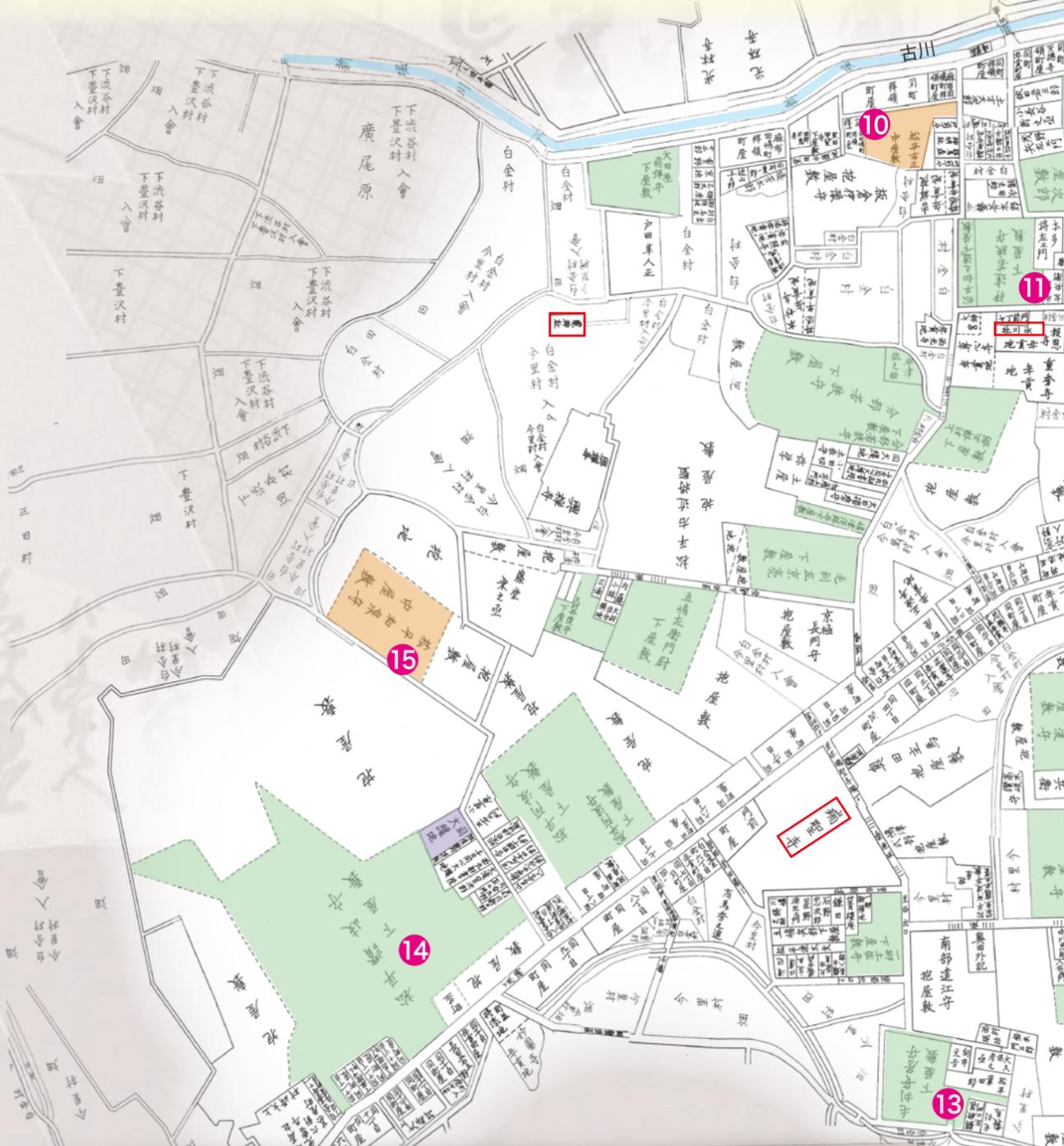
蔵屋敷：年貢米や領内の特産物を収蔵する屋敷で、主に海運による物流に対応するため、隅田川や江戸湾の沿岸部に多くたてられた。

大縄地：下級武士の宅地は職務上同じ組に属する者に対しまとまって屋敷地を与えられ、土地を一括することから大縄地・大縄屋敷といわれた。

なお、「大縄地」については「みなとっぶ11号」で「武家屋敷跡発掘!」の取材記事として掲載。

今号では高輪地区にあった「大名屋敷」をとりあげました。地図を見て、ご自分のお住まいがどの辺りになるのか探してみてください。基にした絵図が作られた弘化3年は、1846年、ペリー来航の7年前、大政奉還の約20年前。この年には既にイギリス・ロシア・アメリカなどの軍艦が、日本の各地に来航し、通商を求めていました。

参考文献：港区立港郷土資料館発行「増補港区近代沿革図集」所収の「御府内場末往還其外沿革図書」(弘化3年)



切絵図



平成22年度特別展『江戸図の世界』発行：港区立港郷土資料館

江戸時代、地図は絵図とよばれました。切絵図は、都市図では江戸にのみ見られる独自のもので、「地域別に区切って作った絵図」、つまり区分図という意味で、現在の住宅地図のはしりと言ってもよい存在です。1枚の中に必要な情報を盛り込んだ実用性の高い絵図で、小さく折りたたんで使え、携帯に便利のため広く普及しました。また実用品として用いられるだけでなく、浮世絵などと並んで江戸土産としても重宝されました。

切絵図にはいくつかの決まりがあります。屋敷の人名がバラバラの向きで書かれているように見えますが、名前の真上が屋敷の正門と決まっています。つまり正門の位置に合わせた向きにして拝領主の名前を書いています。このことについては切絵図の凡例には何の説明も記されておらず、当時は既に常識だったようです。



なんと、96歳で現役卓球プレーヤー!

伊関 きん子さん(高輪在住)

娘時代から大好きな日本刺繍を習い、女学校時代には作品を貞明皇后(大正天皇の皇后)に献上したこともあるきん子さん。80歳になるまで自宅で日本刺繍を教え、娘さんやお孫さんにはご自分でデザイン・刺繍した振袖を着せるなど、日本刺繍にすばらしい手腕を発揮していました。

「座ってばかりいたので、体を動かすことがしたくなり、80歳から卓球を始めました。まったくの初心者でしたが、誘ってくださる方がいて、卓球のマスターズ国際大会に参加しにロンドンへ行きました。その時クロアチアの女性に負けたのが悔しくて、それからずっとプロについて練習しています」と語るきん子さん。国内の試合はもちろん、カナダ・スイス・中国などへも遠征し、すっかり卓球漬けの毎日を過ごしています。白球を目で追うおかげか、目も良く見えるようになったそうです。試合で各地へ行き、全国にできたお友だちとの再会や、日頃の練習のあとのおしゃべりなど、楽しい日々を満喫しています。

「2月には松山に試合に行ってきたばかりです。この年ですから、試合ではなかなか勝てませんが、100歳まで元気に続けたいと思っています!」と明るく話すきん子さん。その様子は、まるで女学生そのものでした。

発明やアイデアを趣味として楽しむ

すけかわ
祐川 洋子さん(三田5丁目在住)

退職後、発明を始めたきっかけは、娘さんの紹介で発明を楽しむサークルに入会したからです。このサークルで発明の面白さを知り、サークル内のコンクールでは1等賞を何回もとりました。

今までの発明品で最もヒットしたのは「まきまき収納」という羽根布団収納具です。デパートでおためし販売の初日、開店前からこの商品を買おうと行列ができ、手持ちの商品があっという間になくなり注文販売になりました。テレビの出演は全局に渡り、なかでも「はなまるマーケット」には発明コーナーのレギュラー審査員として出演したりしました。発明品で「厚生労働大臣賞」「東京都知事奨励賞」「発明協会会長奨励賞」などの賞を受賞しました。

発明のモットーは◎主婦の目線で考えるものづくり、◎困っている人がいたらものづくりを通してお手伝いしたい、◎自分のボケ防止のために考え続けたい、◎アイデアを考える仲間と共に行動したい等々です。

祐川さんは発明やアイデアを趣味として楽しみ、プラス思考で人生を謳歌する素晴らしい女性です。現在、婦人発明家協会、高縄発明特許研究会で活躍しています。



「まきまき収納」と祐川さん

(担当 / 安藤・谷知・明石・伊関・河村・滝川・中嶋・三村・安・吉田)

読者 H・Kさん(高輪在住)のおすすめ料理

タラのホイル包み焼き

●材料(2人分)●

生タラ	2切れ
ほうれん草	50g
しめじ	50g
じゃがいも	中1個
ゆず	少々
サラダ油	少々
酒	大さじ1
塩	少々

<ソース>

マヨネーズ	50g
味噌	大さじ1
みりん	小さじ2

<用意するもの>

アルミホイル	2枚
--------	----



ワンポイント・アドバイス

フライパンに水を入れ、蒸し焼きにすることもできます。じゃがいもの他に、生しいたけやえのきだけを入れても美味しいです。



●作り方●

1. ソースの全ての材料をよく混ぜておく。
2. 生タラの両面に、軽く塩をして酒をふり、約10分おく。
3. じゃがいもを5mm幅にスライスして、さっとゆでる。
4. ほうれん草を熱湯で2分ゆでてから、3cm長さに切る。
5. しめじのはかまを切り取り、手で適当にさく。
6. オープンを240度に熱する。
7. アルミホイルの底になる部分に、薄くサラダ油を塗る。
8. 四角いアルミホイルに生タラを包みやすいように斜めにおき、適量のソースを塗る。
9. 生タラの上に、じゃがいも、ほうれん草、しめじをのせ、その上にもソースをかける。
10. 全体を包み、とじる。
(蒸気が漏れないよう端をきっちりと折りたたむこと)
11. オープン上段に10を入れ、約15分間焼く。
12. 焼きあがったら包みを開け、ゆずを少し飾る。

おすすめ料理
募集中!

(担当 / 滝川・中嶋)

私の自慢 地域の自慢

さまざまな仕事や活動を通じて、
周囲を明るく元気づけてくれる…
そういう方々をご紹介しますページです。
高輪地区にはまだまだオタカラが
眠っているはず。
こんな方の活躍をぜひ載せて、
という情報をお持ちの方は、
今すぐご一報ください!

親子三代、ネジをつくって60年

小宮山 重明さん (白金在住)

高輪地区で唯一のネジ専門の小宮山製作所を訪ね、小宮山さんからお話をお聞きました。

「昭和24年、父がネジ加工製作所を始めて、親子三代で60年以上ネジの製作に取り組んできました。現在は、私と妻と娘の家族3人でしています。まさに家族経営です。」



ネジを早く、正確につくれる都内最大級の転造ローラーダイスという機械を何台も備えています。口径2mm~80mmまで、様々な大きさのネジをつくることができます。大きいものでは、クレーン車の備品に使うネジで備品の重さが数十kgになるものもあります。最近では点滴に使う精密な医療機器のネジの注文もありました。父の時代、皇居新宮殿のシャンデリアのワイヤーを止めるネジを現場でつくったこともあります。ネジ切り加工のスペシャリストとして、どこにも負けない自信がありますよ。」



いくつになっても、筋肉はつくれる

池澤 智さん (高輪在住)

区内のトレーニング・ジムでゼネラル・マネジャー兼チーフ・トレーナーとして活躍する池澤さんは、トレーナー歴17年。学校卒業と同時に渡米しパーソナル・トレーナーとしての訓練を受け、今までに数多くの著名人やスポーツ選手、一般人まで幅広い年齢層の肉体改造を手掛けてきました。

池澤さんが体づくりで重要視するのは、正しいトレーニングと“食が体をつくる”ということ。その柱となるのは高タンパク質・低脂肪・低糖質の食事で、この3つを徹底して摂ることで正しい体づくりのための筋肉が生まれます。既にそのレシピ本も3冊出版し、さらに食生活実践のためのカフェもジムに併設されました。「筋肉づくりに年齢は関係ありません。いくつになっても訓練することでいい筋肉をつけられます」と語る池澤さんの言葉に百倍の勇気をもらいました。



地域の方々を手品で楽しませる

雨宮 武さん (高輪在住)

雨宮さんは、民生委員として活躍しながら、チャレンジコミュニティクラブの友人たちと手品クラブを立上げています。

昨年11月、お祭りの時、赤坂サカスの広場で皆さんの前で初めて披露しました。



高輪児童館や御田小学校の「放課GO→みた」等で子どもたちに見せて、とても喜ばれました。子どもたちはしっかり見ているので、ごまかしがきかないので大変です。これからも地域のイベントや子どもたちに披露したいとのことでした。



島崎藤村の洗礼証書 (高輪)

日本基督教団高輪教会に、島崎藤村 (島崎春樹) の受洗を許可する長老会の記録が残されています。

本教会は1882年創立で、当時は「台町教会」といい、今の東海大学高輪キャンパス辺りにありました。初代牧師は、日本人牧師の最初の1人であり、徳川幕府老中戸田家出身の戸田忠厚であるという由緒正しい教会です。

1888年、藤村は明治学院の学友数人と共に、当時の牧師であり、心酔していた木村熊二 (1845-1927) から洗礼を受け、クリスチャンになりました。熊二は旧幕臣で日本の女子教育の振興に努め、白金台いきいきプラザあたりで生涯を終えています。

教会は1907年、現在地への移転と共に「高輪教会」となり、1933年、フランク・ロイド・ライト風の建築の会堂を建て、2004年、東京たてもの百選に選ばれています。



タウンミーティング TAKANAWA 2012 メンバー募集!!

高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)の魅力アップや課題解決について、高輪地区総合支所と協働で考え、活動してみませんか。

- 対象** 高輪地区に在住・在勤・在学の人、または高輪地区のために活動したい人
- 内容** タウンミーティングTAKANAWAの全体会の下に分科会を設け、それぞれのテーマに沿って活動していただきます。
- 会議・活動** ■支所職員とメンバーによる平日昼間または夜間の会議 ■支所職員とメンバーによる平日・休日昼間または夜間の活動
- 募集人数** 20~30名程度

設置予定分科会 ※一時保育あり

No	募集内容	任期	募集人数	活動の頻度	第1回全体会議のお知らせ
1	「白金高輪グリーンミュージックフェスティバル」 実行委員会 (高輪地区内での音楽祭の検討・実施)	1年間 (24年4月~25年3月)	おおむね10名程度 ※応募多数の場合は抽選	平日昼間または夜間の会議 (おおむね月1・2回程度) 平日・休日昼間または夜間の活動 (おおむね5回程度)	平成24年4月19日(木) 午後6時30分~ 高輪区民センター1階 集会室
2	地域情報紙グループ (高輪地区内の情報取材し、地域に密着した情報紙づくり)			平日昼間または夜間の会議 (各号の編集スケジュールによる) 平日・休日昼間または夜間の取材 (各号の編集スケジュールによる)	<内容> 各メンバー自己紹介 活動内容説明 等
3	地域事業進捗支援グループ (地区版計画後期3年の地域事業の進捗支援)			平日昼間または夜間の会議 (おおむね2ヶ月に1回程度)	

- 留意点** 報酬・交通費・取材費等の支給はありません。
- 申し込み方法** 希望する分科会の番号・住所・氏名・年齢・性別・勤務先名(学校名)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、FAXまたは郵便で下記へ。
※重複して分科会への応募はできません。
- しめきり** 平成24年3月30日(金) <必着>
- あて先・問い合わせ** 高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 〒108-8581港区高輪1-16-25 ☎5421-7123 FAX 5421-7626

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-17612

保健福祉係 ☎5421-17085

みなとタバコルール一斉キャンペーン

品川駅高輪口周辺

タバコマナー & クリアアップ キャンペーン

地域の方と事業者、行政が協力して、①ごみのポイ捨て禁止とみなとタバコルールの啓発活動、②品川駅高輪口周辺の清掃・美化活動を行います。みんなのまちをきれいにしましょう！
ぜひ、ご参加ください。



- 日 時: 平成24年3月22日(木) 午後3時開始
(雨天時: 3月23日(金)に順延)
- 集合場所: 高輪森の公園(高輪3-13-21)

【問い合わせ】
高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎5421-7621



春のパトロール実施中!

「自分たちのまちの安全は自分たちで守る」との思いから、地域・警察・高輪支所が協働して地域を巡回しています。

- 第1回 3月6日(火) 予備日 3月8日(木) 白金周辺
- 第2回 3月13日(火) 予備日 3月16日(金) 三田周辺・白金台周辺
- 第3回 3月21日(水) 予備日 3月26日(月) 高輪周辺

主催: 高輪地区生活安全・環境美化協議会
(パトロール専門部会、自転車・バイク対策専門部会)

【問い合わせ】高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎5421-7621

旧国立保健医療科学院の区民協働スペース利用に関する意見交換会の開催

旧国立保健医療科学院に設置予定の区民協働スペースの利用に関する意見交換会を行います。

- 日 時: 3月21日(水) 午後6時30分~8時
- 対象: 高輪地区総合支所管内在住者
- 場所: 白金台いきいきプラザ ホール
- 申込: 3月20日(火)まで(保育希望の方は、3月15日(木)まで)にみなとコール(午前9時~午後5時まで受付)へ ☎5472-3710

【問い合わせ】高輪地区総合支所
協働推進課まちづくり推進担当 ☎5421-7664
協働推進課協働推進係 ☎5421-7621
管理課管理係 ☎5421-7124

万が一の交通事故のために 区民交通傷害保険



お急ぎください!
平成24年度 区民交通傷害保険の申し込みしめきり間近!

- しめきり: 3月30日(金)
※金融機関でのしめきりは3月23日(金)です

【問い合わせ】
高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎5421-7621

都税事務所からのお知らせ 「還付金詐欺」にご注意ください!

税務職員を装って、税金などの還付金があるとだまし、ATMから多額の金額を振り込ませようとする「還付金詐欺」が都内でも発生しています。

主税局では、税金を還付するためにATMの操作をお願いすることは絶対にありません。

不審に感じた場合は、相手の氏名、所属する部署名をご確認のうえ、指定された電話番号にはかけずに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。また、万が一被害にあわれた場合は、すぐに警察にご連絡ください。

【問い合わせ】港都税事務所相談広報担当 ☎5549-3800(代) または
主税局総務部総務課相談広報係 ☎5388-2924

編集だより

●江戸時代この地域には多くの大名屋敷があり、江戸勤番のサムライ達が日常生活を営んでいたことを思い巡らせば、頼もしくもありほほえましくもあります。(明石)

●今年度(15~17号)も「みなとつづ」の取材などを通して地域のいろいろな方にお会いでき、楽しく勉強させていただきました。地域のみなさまのご協力に感謝します。(安藤)

●江戸時代の絵地図を見てみると、我が家のまわりを、お侍さんや小町娘が行き交う様子が目に浮かび、とても楽しいイメージでした。(伊藤)

●かがやく太陽と安全な街と心豊かな人が多いキューバは、一度は訪れたい国のひとつとなりました。(河村)

●震災から一年。日本中が、危機感に敏感になり、お互いを思いやり、防災に対して、それぞれに対策をし、備えるようになったのではないかと感じています。本来の日本人らしさに立ち返ったような気がいたします。でもまだこれからと気持ちを引き締めて。(高橋)

●高輪予ども中高生ブラザを見学しました。いろいろな工夫がされていて、感心。子どもにも沢山、幅広く活用されるといいなと思いました。(滝川)

●取材中の雨宮さんを見ていてとても楽しかったですので私もやってみたくまりました。(中嶋)

●高輪にすっかり溶け込んでいらっしやるアントニオ・古賀さん。毎日のウォーキングはお住まいの近隣とはいえないほどの広範囲を2時間位とか。その何分の一でもお手本にしたいと実感致しました。(三村)

●今回の表紙画は近所の友人(画家)にお願いしてみたら、早々に「御殿の桜」にちなみ春らしい作品を仕上げてくださいました。彼女の御協力に感謝しております。(安)

●高輪予ども中高生ブラザを見学し、そのすばらしさに圧倒されました。同時にこんな充実した環境を享受できる子どもたちに、ちょっとぶり嫉妬も。この施設が有効活用されることを心から願っています。(谷知)

●高輪地区には多くの大名屋敷跡がありますが、それぞれの屋敷にまつわるエピソードなど調べる内に歴史的出来事に出合う等興味があきまきました。(吉田)

- 安藤 洋一(チーフ) 高橋 秀華(サブチーフ)
- 谷知 貞江(サブチーフ) 明石 美穂子
- 伊藤 則子 河村 保弘
- 坂下 愛子 滝川 まりえ
- 中嶋 路子 三村 晴子
- 安 勢津子 吉田 由紀子

平成23年11月3日(木・祝)

高輪地区防災フォーラム

～共助・連帯・地域の絆づくり～ が開催されました

フォーラムでは、「岩手県沿岸部復興支援プロジェクト」に取り組む、岩手大学教授による基調講演などの講演会のほか、物産販売や東日本大震災パネル展示などを、岩手大学や被災地並びに地域のボランティアグループ等関係各位と高輪地区総合支所の連携協力により行いました。

震災から1年が経った今、地域の絆づくりに取り組む被災地の声を、高輪地区防災フォーラムで行われた各コーナー（一部要旨）の紹介によりお届けします。

■基調講演 テーマ：「震災復興と地域づくり」 講師：岩手大学農学部教授／東日本大震災復興構想会議検討部会委員（当時） 広田 純一氏



岩手県の復旧・復興に向けた、「岩手県沿岸部復興支援プロジェクト」や震災後の新たなコミュニティづくりに取り組む広田教授にご講演いただきました。講演では、被災地の現状と課題を紹介するとともに、日頃のコミュニティのあり方が、震災のような自然災害への対応にも影響することをお話しいただきました。講演の一部要旨をご紹介します。

◆東北の被害の状況と課題◆

平成23年3月11日の東日本大震災では、岩手県：死者4,664名、行方不明者1,599名、宮城県：死者9,439名、行方不明者2,082名と、数多くの犠牲者を出しました（平成23年10月11日時点）。震災から7ヶ月余りが経過し、仮設住宅への入居が進むなど、被災地は少しずつ復興を成し遂げています。しかし一方で、仮設住宅へのコミュニティ単位での集団入居が叶わず、分散移転を強いられた地域では、自治会の解散など、コミュニティの維持が難しくなっています。

◆地域コミュニティの重要性◆

仮設住宅では、新たな近所付き合いを構築する必要がありますが、生活環境の変化に馴染むことができず、孤立化を深め、ストレスにより体調を崩す人が出始めています。また、近隣住民の被災の程度の違いにより、気持ちのすれ違いなどが生まれ、疑心暗鬼になってしまうケースがあります。一方で、結束の強いコミュニティは秩序があり、弱者への配慮が行き届きやすく、生活も安心かつ快適です。災害直後に頼りになるのは近くにいる人で、コミュニティの結束を高めるような機会・場の設定（お祭りやイベント、復興計画・事業への参加など）が復興という目標の達成のために重要です。

◆終わりに◆

震災復興はようやく入口に立とうとしている段階で、復興を成し遂げるためには、被災者自らが立ち上がることが何より重要です。一方、長い復興の過程では、ともに歩む仲間（共助）と公的支援（公助）が必要です。現場から離れている支援側は日常モードに戻っていますが、現場はまだ非常事態モードです。復興のために、継続的な関心の目を向けていただき、ご支援をお願いします。

■被災地ボランティア活動報告 講師：市川 享子氏



岩手県大槌町吉里吉里地区で復興支援に取り組む、明治学院大学ボランティアセンターコーディネーター市川氏から、学生ボランティアの支援活動や、支援に必要なことをお話しいただきました。講演の一部要旨をご紹介します。

◆明治学院大学ボランティアセンターについて◆

明治学院大学ボランティアセンターは1995年の阪神淡路大震災時に、当校の学生が多数支援に駆けつけたことがきっかけで設立されました。東日本大震災後は、岩手県立大学や企業、NPOとの連携や、『くらしまちづくりネットワーク横浜』の形成、学生ボランティアを中心に大槌町で被災地支援を行っています。

◆学生ボランティアの要請を受けて◆

岩手県立大学から学生ボランティアの応援要請があり、準備を整え、現地で支援計画を立てていたところ、4月の初旬に大槌町教育委員会と接触ができました。それから、学校を再開するための色々なお手伝い、例えば廃校になった学校の備品の運び出しや、入学式、卒業式の準備などを支援するようになり、結果として震災直後、40名程度の学生がボランティア活動を行いました。

◆被災地支援に必要なこと◆

東日本大震災から数ヶ月が経とうとしている中で（平成23年11月3日講演時）、多くの支援がなされていますが、時間の経過とともにその数は減少しています。復興のためには『息の長い支援』が必要であり、大学という主体が継続して支援をしていくためには、ただ活動を展開するだけではなく、大学にとっての必然性を作ることが大切で、支援活動を通した『学生の学びと成長を連動させること』が必要不可欠だということを実感しております。

そういった中で、課題を抱えながら私達は、身近な東北という地域に対して何が出来るのかを考え、5年、もしくは10年続く支援活動にしたいと考えています。

引き続き港区の方にもご支援をいただき、より意味のある活動にしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



■防災講談 演目：「ひとりじゃなくて、ひとつ」

講師：神田 織音氏 おりね



講師の神田織音さんによる、「絆づくり」をテーマとした講談を実施しました。

震災により被災した方々が暮らす避難所で、不透明な未来に対する不安、恐れを感じ、時には衝突しながらも、被災者やボランティアの方々が手を取り合い、困難に立ち向かう姿を描いています。「人間はひとりじゃない、生きていれば嬉しいことだってある。」「自分自身じゃなくても誰かの喜びが自分のものになることもある。」「哀しみを抱えたもの同士が力を合わせて苦難を乗り越えていく私達は、ひとりじゃなくてひとつなんだ」という力強いメッセージは、聴衆の心を強く打ちました。

■東北の物産販売



ボランティアグループの協力を得て、福島県いわき市直送の野菜や宮城県気仙沼市B級グルメ、岩手大学農場生産品などを販売しました。被災地を支援しようと多くの人が足を運び、完売となった商品が出るほど大盛況でした。

■地域の魅力いっぱい写真展で、防災講談が聞けます！

高輪地区総合支所では、地域の魅力いっぱい写真展を開催しています。開催中には、講師神田織音氏による防災講談「ひとりじゃなくて、ひとつ」を聴くことができるブースを設けています。その他、防災フォーラムの様子も写真により紹介しています。どうぞご来場ください。

【日 時】

2月15日（水曜）～3月15日（木曜）
午前9時から午後5時
※3月12日（月曜）はお休みです。

【会 場】

高輪区民センター2階展示ギャラリー
（港区高輪1丁目16番25号 高輪コミュニティぷらざ内）



■被災地の現状を語る 講師：宮城県気仙沼市民 上田 克郎氏



気仙沼商工会議所青年部直前会長（当時）の上田克郎氏には、地震発生時から津波襲来までの現地の様子や、被災地となったまち、救助を求める人々など、当時のエピソードや教訓を交えて、今後の防災意識の向上につながるお話をしていただきました。講演の一部要旨をご紹介します。

◆震災時の状況◆

私達の住むまちでは、年に一度は津波騒ぎというものがあり、20～30センチ程度の津波が観測されています。そのせいか毎回「あ、またか」というようなイメージを抱く程度で、3月9日にも3メートル程度の津波注意報が出ていましたが、実際には30センチ程度のもので、あまり気にとめていませんでした。

この狼少年のような話が直前にあり、3月11日の震災を迎えたのですが、津波騒ぎになった時に、そんなに驚いた人がいいたろうか、と思ったのが正直なところです。



それから一目散に皆、車を使って逃げようとするのです。車は雨風がしのげ、ハンドルを握ると、「どうにかならんじゃないか」という安堵感があります。交差点は、右から左から、とにかく避難所まで逃げようと、大混乱でした。



この写真は、津波の第一波が来たところですが、遠くの方に異様なもくもくとしたものがずっと見えたのです。私が撮影した時は音も聞こえません。単に「え～なんだろう、あれは」という雰囲気でしたが、あっという間に足元まで津波が来るんです。



次の日ですが、海面は鏡のように、静かな状態です。ここに行ったときは、鳥が一羽もいません。まさに静まり返って「し～ん」としている中、船が煙を上げて燃えているという異様な雰囲気、背筋がぞくぞくするような思いを今でも覚えています。

◆皆さんに伝えたいこと◆

土地によって様々な特色の「地震、高台、避難」の看板があちこちにありますが、日常のものになってしまい、目を向けなくなっています。

本当は、地震が来るたびに面倒でも、こういうものを確認して毎回逃げて欲しいと思います。そうすれば、どんな災害が来ても助かります。

震災を体験して思うのは、いくら立派な避難所を整備しても、防災計画を立てても、命があって初めて役に立つということです。自分で自分の命を助ける、逃げるということを真っ先にやってください。それが被災地からの一番の願いです。

私たちは、復興に向け「地域再生、かじを取れ」を標語にし、自分達の生活だけではなく、我々の子ども達、その先の未来の子ども達が住みよいまちづくりをしようと今、動き出し始めたところです。皆さんに温かく見守っていただければ、それが私達の力になります。被災地に目を向けていただいて、ご支援、応援をお願いしたいと思います。



■被災地の現状を語る 講師：宮城県気仙沼市民 菅野 千加子氏

港区立白金小学校、高松中学校卒業生で、現在気仙沼市在住の菅野千加子氏には主に、保護者の視点から子ども達に焦点をあてたお話をしていただきました。震災の影響により危ぶまれた中学生の修学旅行が、たくさんの方の支援により実現できたこと、港区の皆さんへの感謝の気持ちなどをご講演いただきました。講演の一部要旨をご紹介します。

◆港区の方々の温かい支援を受けて◆

気仙沼中学校は震災の影響により、避難所から学校に通っている子どもが多く、修学旅行に行けない状態でした。同校の中学三年生になる子どもを持つ親としては、「中学校の修学旅行は一生に一度だけ、行かせてあげたい、どうしたらいいだろう」と思い、高松中学校時代の同窓生に相談したところ、高輪の町会や商店会、白金小学校の同窓生、高松中学校の同窓生など様々な方からご支援をいただき、修学旅行を実現することができました。



今日は、気仙沼中学校のPTA会長と生徒会長からの手紙を預かってまいりましたので、読ませていただきます。

港区の皆様へ

【PTA会長からの手紙】

震災後、多大なご支援を頂き、本当にありがとうございました。応援していただいていることが、私達の心のよりどころとなり、とても心強い気持ちとなりました。おかげさまで、10月12日から2泊3日の、東京方面への修学旅行に行くことができました。すべて津波に流されてしまった子ども達も、新しい思い出作りで東京へ踏み出す、未来へ踏み出す第一歩となったと思います。そしてとても楽しく、よい旅行となったようです。

港区の皆さんをはじめ、多くの支援を頂き、修学旅行を行うことができました。

どうか今後も長期的に皆さんの応援をいただきますようお願いいたします。

港区の皆様へ

【生徒会長からの手紙】

この度は、私達、気仙沼中学校三年生の修学旅行を支援してくださりありがとうございました。

一度は決行を危ぶまれ、修学旅行ができないと思っておりました。皆様のご支援のおかげで実施することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから私達は、応援いただいた皆様に恩返しができるよう、自分達の出来ることから、精一杯頑張っていきたいと思っております。

この度は、本当にありがとうございました。

◆皆さんに伝えたいこと◆

災害に備える上で、地域のつながりがとても大事なことだと思います。つながりができていれば、行方不明になった人達を探すときでも、誰が生きていて、どの避難所にいるかが把握できます。これから大きな地震や災害に備えて、いろいろなイベントに自分から参加して、地域とのつながりを深めていただきたいと思います。